

「学生のおもしろ企画・大学祭企画」実施報告書

※整理番号：2

企画名	寺家古民家リノベーションプロジェクト（カフェ&フリースペース）
実施日	木イベント：令和7年10月25日（土）～ 令和7年10月26日（日） 漆喰塗りワークショップ：令和8年1月24日（土）～ 令和8年2月1日（日）
実施場所	広島県東広島市西条寺家 7282-1
企画代表者の氏名、所属	氏名：田中 仁望 所属：工学部第四類建築プログラム
構成員の氏名	釜谷咲木乃、長野竜大、濱野喜史、高山尚也、景山桜、光旗海人、入船幸福、田中仁望、平岡快彪、藤本桃羽、小川慎太郎、小口明日鷹、西府知宏、佐相進太郎、仲栄真惟仁、中村翼
指導的立場の教員氏名	※報告内容をご確認の上、ご署名または記名・押印をお願いします。 角倉 英明
企画の目的及び内容	本企画は、空き家改修の実践を通じた建築教育の充実と、近隣住民との接点形成による活動周知を目的として実施した。具体的には、①地域住民を対象とした木イベントを行い、団体活動の内容や改修の意義を地域へ発信した。加えて、②年明けに漆喰塗りワークショップを実施し、参加者が安全に施工技術を体験できる機会を設けた。 これらの活動を通じて、学生にとっては講義だけでは得にくい施工・段取り・協働の学びを得るとともに、地域に開かれた改修活動としての基盤づくりを進めた。
来場者数	木イベント：21名 漆喰ワークショップ：4名
主催・後援団体（外部のコンテスト等に参加する場合は、そのコンテストの規模）	空き家リノベーションサークルDIYAH（広島大学文化サークル団体連合所属）
活動の内容（準備、広報活動、当日の様子等）	<p>【準備】</p> <p>木イベント：作業内容の選定、使用工具・材料の確認、試作、役割分担、動線・安全管理の事前検討を実施。</p> <p>漆喰塗りWS：下地確認、養生、材料準備、施工手順のマニュアル化、安全上の注意点共有を実施。</p> <p>【広報活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・団体SNSや関係者ネットワークを通じて開催案内を発信。 ・木イベントは、特に近隣住民への周知を目的として案内し、活動の認知拡大を図った。 <p>【当日の様子】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・木イベントでは、参加者と学生が対話しながら作業を進め、改修活動の背景や今後の方針を共有した。 ・漆喰塗りWSでは、施工手順の説明後、実際に塗り作業を体験。学生同士でコツを確認しながら進め、技術習得と協働の実践につながった。 ・特に工学部第四類の1年生にとっては、初期段階で実践に触れる機会となり、以後の学習意欲向上に寄与した。

（裏面に続く）

「学生のおもしろ企画・大学祭企画」実施報告書 (裏面)

アンケートの結果 (来場者にアンケートを実施した場合のみ)

参加学生からは、以下の感想が得られた。

- 「左官を極めた先が見えて良い経験になった」
- 「難しそうに思っていたことも、やろうと思ったらできるということを知れた」
- 「ムラが無限に出てきて大変だった」
- 「漆喰を塗る際には、軽く抑えるということを学んだ」

以上より、初学者にとって施工技術の難しさと面白さを同時に実感できる内容であり、技能面では“均一に仕上げる難しさ”と“力加減の重要性”の理解が進んだことが確認できた。

成果・課題

【成果】

- ・木イベントにより、近隣住民に対する活動周知と関係形成を進めることができた。
- ・漆喰塗り WS により、学生の実践的スキル（塗りの力加減、仕上げ精度、段取り）の向上が見られた。
- ・特に学部1年生にとって、学修内容と実務的作業の接続を早期に体験する機会となった。

【課題】

- ・施工品質（塗りムラ抑制）の安定化に向けた、事前練習と手順の標準化が必要。
- ・初参加者向けに、作業レベル別の指導體制（見本提示、少人数レクチャー）をさらに整備する必要がある。
- ・広報の継続性を高め、参加者層を拡大するために、告知媒体と周知タイミングの改善が必要である。

実施風景 (写真)



漆喰ワークショップ



左官鋸作り

木イベント

【提出方法】 指定された期限までに本紙を作成の上、電子ファイルで提出してください。
E-mail でも受け付けます。

【提出先】 工学系総括支援室 (kou-gaku-gakubu@office.hiroshima-u.ac.jp)